

いしかわ じょうり い せき

石川条里遺跡 現地説明会資料

（一財）長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

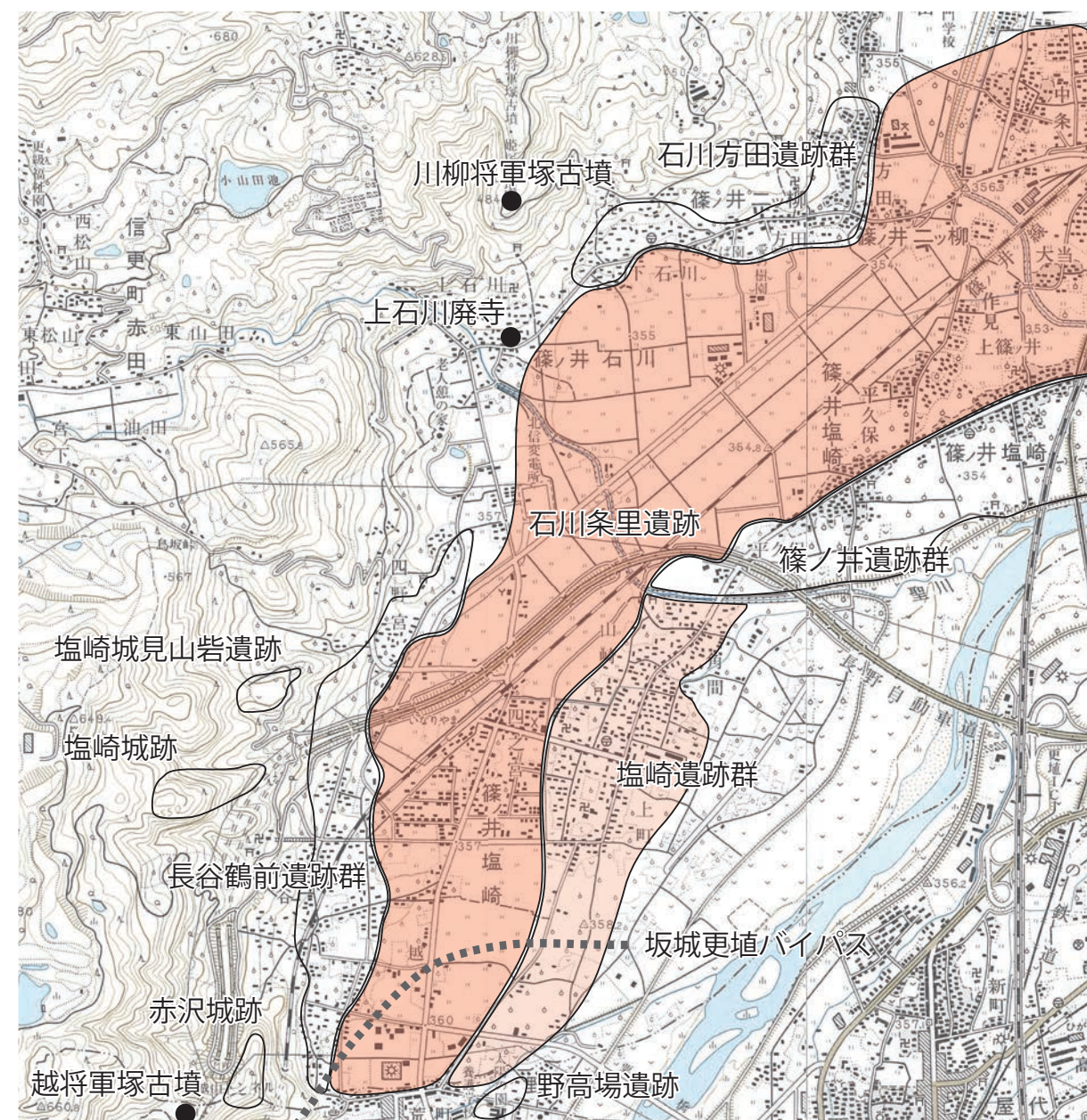
千曲川左岸には、千曲川に沿ってのびる自然堤防とその背後に広がる後背湿地に、数多くの遺跡が分布しています。今回、千曲川左岸をほぼ東西方向に縦断する形で、一般国道 18 号（坂城更埴バイパス）改築工事が行われることとなり、工事に先立って長野県埋蔵文化財センターが平成 25（2013）年度から発掘調査を実施しています。

今回の発掘調査は、塩崎遺跡群（弥生時代～平安時代の集落跡）、石川条里遺跡（弥生時代～平安時代の水田跡）、長谷鶴前遺跡群（平安時代の水田跡、中世の集落跡、近代の窯跡）の 3 遺跡が対象となっています。

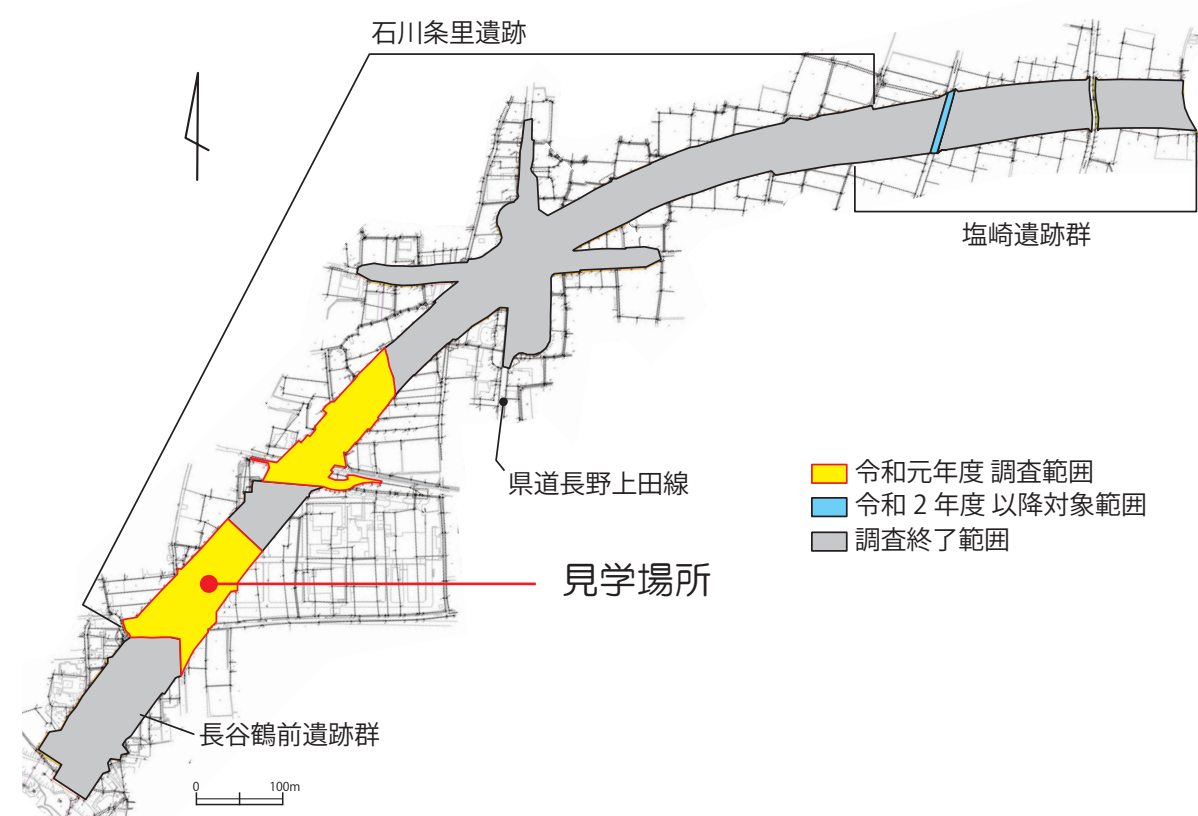
7 年目となる今年度は石川条里遺跡の調査を行っており、平安時代に千曲川の洪水で埋まった水田跡がみつかっています。



塩崎遺跡群・石川条里遺跡 遠景（南西方向より）



坂城更埴バイパス路線と遺跡



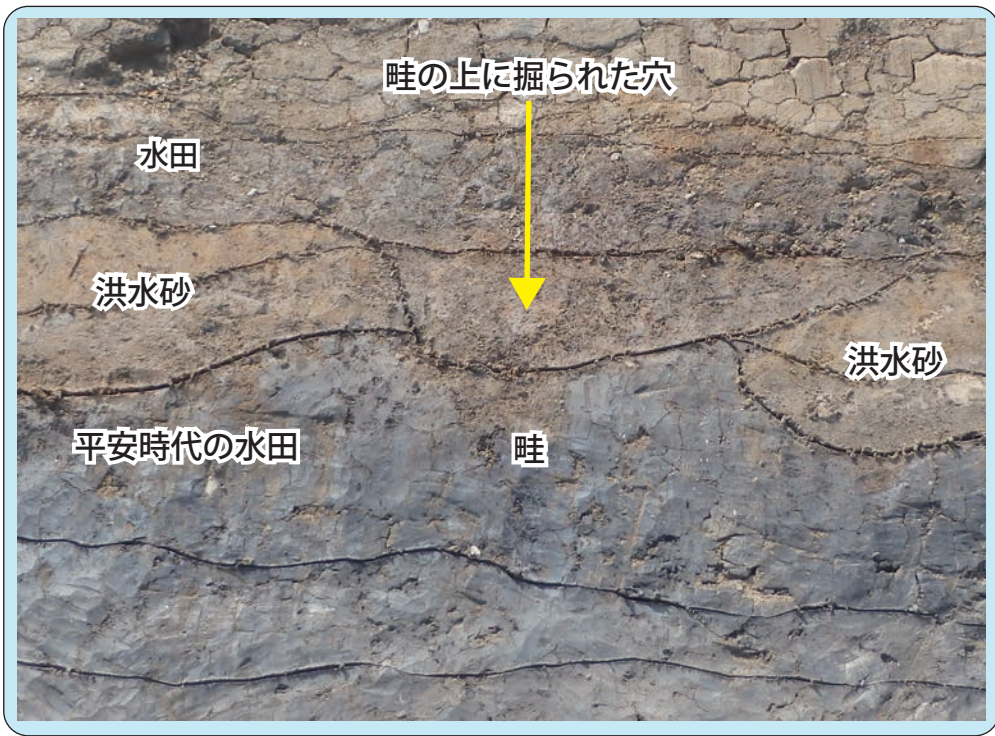


写真1 千曲川の洪水で埋まった平安時代の水田跡と畦の上に掘られた穴

《発見その①》

今回発見された平安時代の水田跡は、畦が東西南北（正方位）方向に延びていました。古代の水田区画制度である「条里地割」と共通しています。

《発見その②》

大畦のなかには、多量の木材（芯材）が埋められていました。これは、畦を補強するためのものと考えられて（写真4）。また、畦のかたすみに水口が設けられていました（写真3）

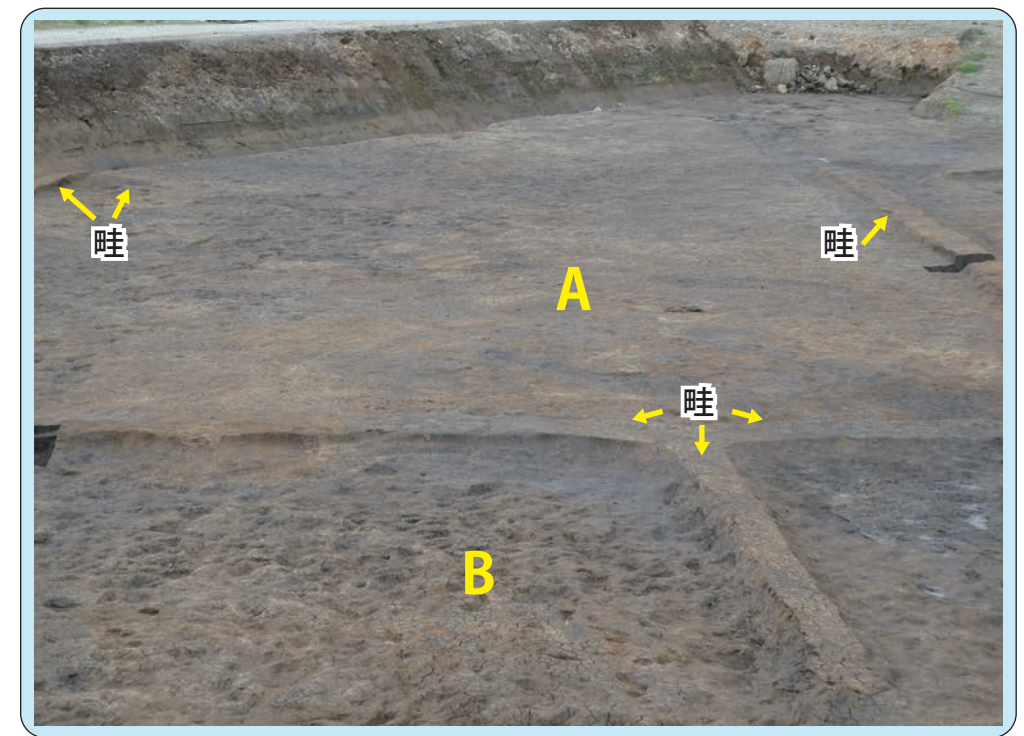
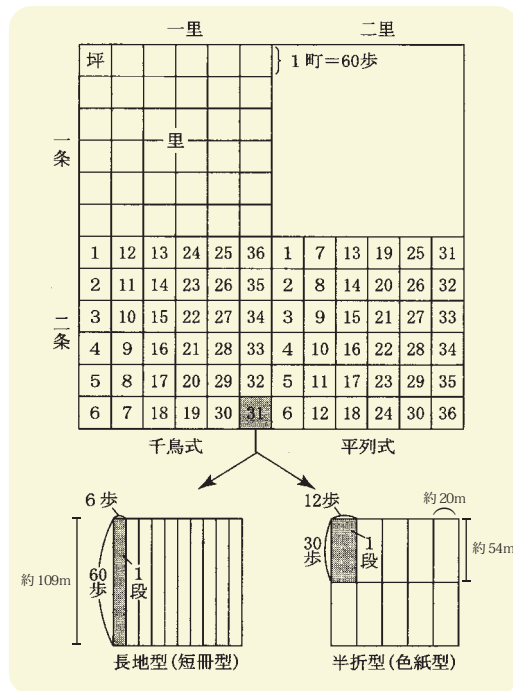


写真2 平安時代の水田跡 水田面がことなる様子



条里地割の模式図

（田中琢・佐原真 2011 『日本考古学事典』三省堂）

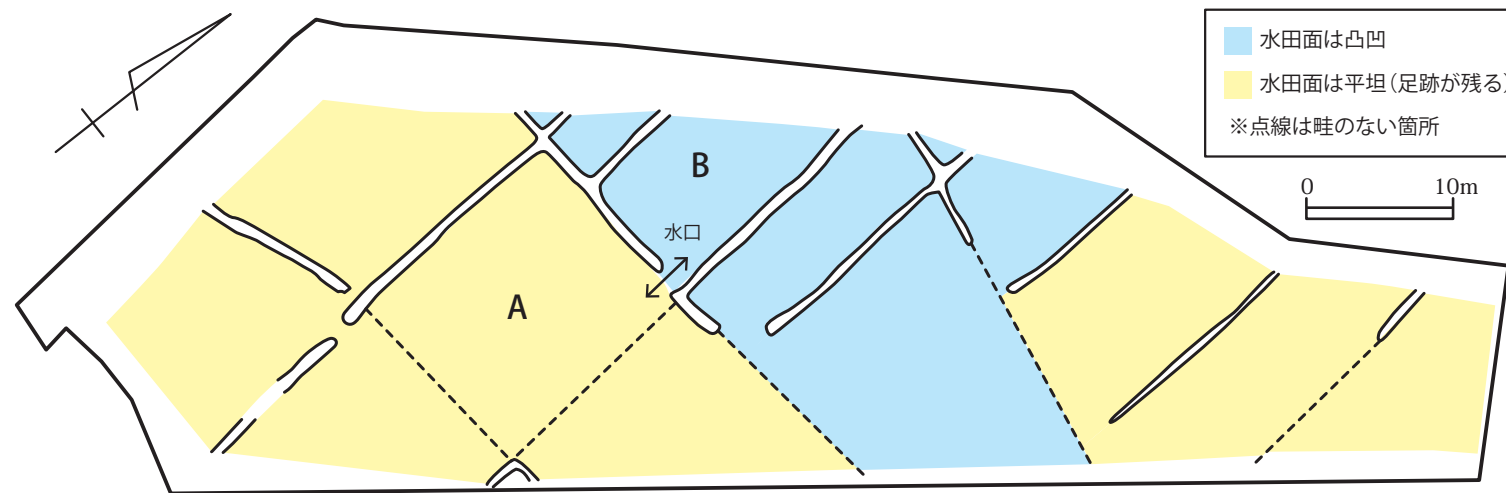
《発見その③》

畦で囲まれた水田面（水田一筆）の状態は一様ではなく、ほぼ平坦な水田面（写真2のA）と、凹凸が激しい水田面（写真2のB）がありました。水田面には、人間の足跡と思われる窪みがありましたが、比較的Aの水田面で確認できました。さらに、水田一区画分の畦がみられない箇所（写真2）がありました。

《発見その④》

今回発見された水田跡は、厚い洪水砂で覆われています。水田が洪水で埋まった後、畦の上には、穴が掘られていました（写真1）。

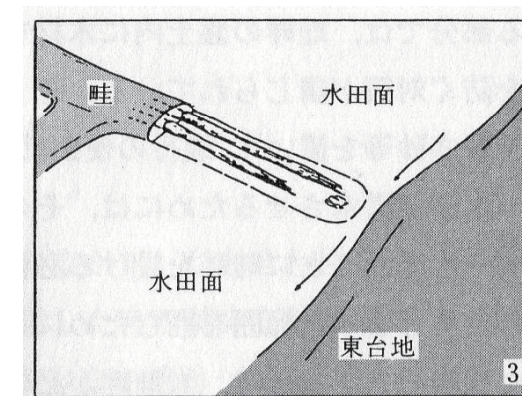
※遺跡現場には滑りやすく足元の悪い箇所がありますので、見学の際には転倒やケガがないように十分で留意ください。



平安時代の水田跡（今回の見学場所）



写真3 畦に設けられた水口



畦の補強材（芯材）模式図
（工業普通 1991 『水田の考古学』 東京大学出版会）



写真4 大畦のなかに埋められていた木材（芯材）

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL (026) 293-5926
FAX (026) 293-8157
E-mail info@naganomaibun.or.jp
インターネット（最新の情報はこちらから）

長野県埋蔵文化財センター

検索

http://naganomaibun.or.jp/

